

本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森」を里やまとして守り、楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。



森の教室上級編にて参加者にチェーンソーの指導を行う森づくりグループメンバー

森では間伐の季節です！

樹木が水を上げなくなったこの時期、森の中ではチェーンソーの音が響き始めます。

夏場の暑い時期から下草刈りや取付き通路の整備と準備をしてきた森づくりグループのメンバー達が本格的な作業を始める音でもあります。

同じフィールドの作業ばかりでなく時にはボランティアで森の教室や企業連携の間伐体験作業の指導にも当たっています。

外は寒くても森の中では熱い息吹きが今日も響き渡るのです。

本年もよろしくお祈いします

新年明けましておめでとうございます。
昨年末には例年通り年末行事として会員による里山サテライトの掃除と門松の飾付け、そして餅つきが行われました。



会員によって作製された門松とオコズナ撒きで描かれた太陽と梯子

海上の森だより第14号目次

未来予想図(その4)	P.2~4
新聞より	P.5
海上歳時記	P.6
海上いま、むかし	P.7
ぎゃ~ろめ通信	P.8
グループ報告	P.9
収穫感謝祭報告	P.10
溜め池勉強会報告	P.11
幼児森林体験推進会議報告	P.12
事務局からのお知らせ	P.12
運営委員会議事録他	P.13
1月~3月の行事予定	P.14

海上の森の会 会長 山川 一年
事務所 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
「あいち海上の森センター」内
「海上の森の会」事務局
TEL&FAX 0561-21-9298 (留守電対応)
e-mail : kaisho_satoyama@yahoo.co.jp
ホームページ <http://kaishonomori.com/>

海上の森未来予想図(その4)

今回は、平成20年度第1回海上の森運営協議会を傍聴した報告です。(日時:平成20年度9月19日午後3時~5時 場所:自治センター4階大会議室)

これは単なる傍聴記録ではありません。運営協議会こそが、現在唯一海上の森の保全に反映される会議体であり、未来を決めていくこととなります。会議から読み取る海上の森の未来予想図です。

まず、海上の森運営協議会とはそもそも、海上の森と市民にとって何なのでしょう。

海上の森運営協議会開催要領には、目的が「海上の森における保全と活用の取組の推進及びあいち海上の森センターの適正な運営を図るため」とあります。



第1ポイント! 「海上の森における保全」が一番の優先課題って書いてある。

これを協議するため12人の委員で構成され、ときにはあいち海上の森センター所長が依頼する、とあります。

以下は、委員を選ぶ基準です。

- (1) 森林及び里山の保全と活用について専門的な知識を有する者
- (2) 海上の森の保全と活用に主体的に取り組んでいる者
- (3) 瀬戸市及び海上の森の地元関係者
- (4) 自然学習、森林環境教育などについて活動しており、その実践的な知識を有する者



第2ポイント! 委員は専門家ばかりでないということ。(2)が入っていることに注目。

後は、議長は互選で選ばれるとか一般的なことが書かれています。ただし、問題な箇所もあります。「座長が協議会の一部又は全部を公開しない旨決定したときは、この限りではない。」



ええー!!! 座長の胸先三寸で非公開にしてもいいの? 「協議会の会議録及び会議資料は、5年間保存する。」だって。ということは、5年たったら、何が協議されたかはわからなくなるのか?

いよいよ、肝心の傍聴してきた中身の報告です。

いろんな意見が出ましたが、関心のあるのは、未来の海上の森がどうなるのかであり、そこに欠かせない多様な市民の参画が図れるのかどうかです。紙数上、それらに関係した委員意見と所長の答弁に絞って要約報告します。スタート!

M委員: 企業連携は、企業独自の意見でやっているのか。

センター: 計画書を出してもらって判断し、センター、海上の森の会が指導している。

M委員: どんな内容のことをしているのか。

センター: 間伐、下草刈りです。



今流行のCSR。悪いことじゃないよ。だけど海上の森でやった企業連携の人工林施業では、常緑樹の幼樹がみんな刈り取られていた。人工林では下の地面に常緑樹が生えている方が、雨をストレートに受けないからよいとされている。そして、作業の後の林道の端に落ちていたサンコウチョウと思われる巣だ。巣が落ちることはあるとして



も、施業者は、伐採前にそこがどういう自然のある場所なのか、自然観察を行うというような事前森林教育はなされているだろうか気になった。

何より、委員が現場を見ていたら、もっと違う趣旨の質問になっていたのではないだろうか、残念だ。

* 後日確認したところ、地面に草が生えるように、まずは影になる幼樹を刈るのだそうです。その後、に間伐するそうです。

その後、数人の委員から入場者数のカウントにつ

いて質問がされました。

駐車場トイレは50人に1度、休憩所のトイレは13人に1度使用するという推定です。(何が根拠になった数字なのか?) カウントは2箇所のトイレを使用した人数を足して2で割った数でした。使用すると自動的にカウントされるそうだが、そういう発想で入場者数を把握するという事にどれほどの意味があるのだろうか?どんな人が何の目的で何を心得て帰っていくのか。そういうことにセンターは、関心がないのだとしたら、それは不作為、怠慢?

地元委員: 入場者数もその質が問題。多くなるとプラスもマイナスもある。

S1委員: 駐車場の入り口に小さな小屋のようなものがある、案内図があればいい。

S2委員: いっしょに入山帳のようなものを置けばいい。

K1委員: センターはビジターセンターなのか、教育施設なのか。後者であってほしい。



入場者の数字が問題だという発想は、行政が管轄するイベント施設によくあることだけど、数のみを問題にする発想から自由になってほしい。ビジターセンターというなら全域地図のサービスさえないのは変だし、教育施設というなら、利用者の目的を知るためのアンケート調査をしてはどうか。委員からセンターの目的を教育施設に向上させるためのアンケート調査の必要性についての意見はなかった。センターの仕事の目的って何?

その後、時間をとって所長から「海上の森森林整備の取組実施(素案)」と「海上の森農地整備の取組実施(素案)」が説明されました。

「海上の森森林整備の取組実施(素案)」では、森林に偏っていることが前回の協議会で指摘されていたからでしょうか。里についての言及が増えました。

「スギ・ヒノキ林は相対照度を20%以上必要だが、海上の森では現在5%。材積間伐率35%を上限に間伐を実施していく。間伐は15年間に1回は実施する。」

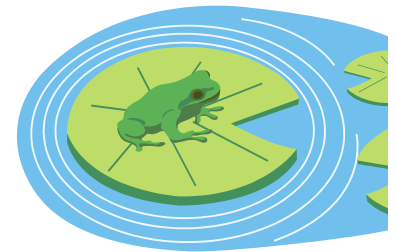
末尾に地域別森林整備の実施という地図が添付されていましたが、で囲まれたゾーン別のもので未だ、未来図を共有するほどには具体性のないものでした。

「海上の森農地整備の取組実施(素案)」今回は以下のことが目をひきました。

「また、生物多様性の観点から無農薬、有機栽培や不耕起、冬期湛水といった農法について検討し、取り入れていく。」

「ため池の整備 この地区にあった4つのため池の復元について調査検討し、水田の水環境維持のため、県民参加による協働の取組としてため池整備を検討する。」

「まず、用水確保の工夫のひとつとして、比較的簡易にできる谷筋にある休耕田を利用した、簡易なため池稲井(水田を少し深くして水をためるもの)に整備を進めていく。」




とりわけ、無農薬・不耕起・冬期湛水はセットだそう。田んぼの生物多様性を豊かにするだろう。上流地域の田んぼが担う価値のある農法だ。化成肥料を使うか使わないかは、下流への水の内容に大きな影響がある。生物多様性を軸にした農業が海上の森で行われることこそ、SATOYAMAイニシアティブにふさわしい。ただ、現在の里づくりの状況からみて、ほんとうに実施されるかを心配してしまう。ため池を、県民参加による協働の取組として行うと書かれているけど、「協働」というのは、地元・よそ者・専門家、みんなガラガラポンすることを言うんだよ!


K1委員: 「かつて」と何度も書かれているが、「かつて」とはどんな里山をめざすのか共通の理解が必要。海上の森は一つなのだから。自然環境保全地域を管轄する環境部とは連携できているのか。広葉樹の管理はどこにタイムリミットを置くのか。全て大径木にするのか。

大規模ではなく皆伐する区域があってもいい。吉田川沿いのコナラはほとんどカシノナガキクイムシにやられている。早急に対策が必要だ。

センター：昔ながらの田んぼの景観も守っていききたい。植林は、植えた以上利用する循環を考えなければならない。皆伐地1箇所は、つくりたい。使える材は使っていきたい。

 そうそう、「海上の森は一つ」だ。森林保全課と自然環境課が縦割り意識で動く限り、海上の森は一つになりようがない。どちらから先になどと言い合わないでほしい。未来予想図第1回(通信8号)では、里山が循環経済で支えられるように「里山ガーデニングショップ開店」として、すでに提案している。実行するのは県知事の決断次第だそう。さぼっているのは、誰なのか。ここでもまた縦割りの弊害か。2,3年で去っていく役人の継続性のなさがさらにバラバラを加速している。

U委員：いただいた資料はきちんと読ませていただきましたが、この資料は、林業技術者と農業技術者の書いた文章で、私のような生物屋が書くとまったく違ったものになる。生物多様性条約COP10でSATOYAMAイニシアティブと言われているとき、里と森林との関連で生物多様性をどう捉えるのかを考えてほしい。


 里山は生物多様性と経済循環で持続可能になってきた環境だ。どちらが欠けても成り立たない。海上の森は、未だにどれもスタートしているとはいえない。それをやるのは、センターだということ。海上の森大学も国際フォーラムもいいけど肝心の優先課題 海上の森の保全 にこそまず、取り組んでよ！本庁が何を評価するのか次第だと聞くけど、それじゃイベント優先は、県庁の価値観だということになる。事件は現場で起っていることを忘れた机上の価値観で保全は不可能！最後に、議長がまとめました。

議長：今回のまとめとしては、里山をどうするのか。生物多様性との関係はどうするのか。環境部との関係をどうするのか、などが出されました。

一度会議を閉会してから

K1委員：昨年12月のシデコブシのシンポジウムでは、手を入れずほっとけばいいという専門家もいれば、逆に手をいれるべきという専門家の意見もあった。こういう問題点で悩んでいるのならもっとこの場に出してきてほしい。

議長：議題提案を、活動している人からも出してもらってはどうか。

 会議閉会后だったが、とても重要な意見だった。果たして議事録には上がるだろうか。直接、センター長に「次回から、市民提案の議題を聞いてほしい。」と言ったら、即座に「それはだめ。委員に伝えてとりあげてもらえば。」と却下された。

この報告を読まれたみなさんの感想をお聞かせください。

あれほどの大騒ぎと、いろんな人たちの苦勞で残された海上の森。全国でも注目され、今もその後はどうなったのですか、と聞かれる。守られた後の保全と活用に、市民の協議体があるとはいえないことを伝えるとき、何ともいえない気持ちになる。「海上の森の会がある」とセンター(県)は応えるのだろう。しかし、運営でいっぱい、いっぱいの海上の森の会では、森全体の方向性をセンターと協議する時間も機会もない。現場をよく知る多様な人の声を聞き、保全に取り入れる仕組みをつくらない限り、いたずらに時間が過ぎていくばかり...

(注)議事録がHPに上がっています。是非ご参照ください。

(曾我部)



自然環境調査グループの活動が中日新聞で大きく取り上げられました。目にされた方も多いと思いますが改めてここで紹介します。

環境と暮らし

咲いた、実った、鳴いた

身近な自然を賞したい。そんな思いを持っている人は多いはず。そこで手軽に取り組めるのが、動植物を観察して記録を残すこと。分かる種類だけでも観察す

れば、保護活動に結びつけ貴重な資料となる。調査者も全国約千カ所で行われている自然環境の移り変わりを長期にわたり生調査する事業を進めている (真村敦)

身近な自然 定点観察



気付いたことはずいぶんメモを取る。いづれも愛知県豊田市中

環境保全へ貴重なデータ

二〇〇五年に開かれた愛・地球博(愛知万博)の会場の一部が愛知県豊田市の「海上の森」。約五百千本の森には約三億本のシラカバなどさまざまな動植物が生息している。万博開催の年から週一回、ここを生物調査を続けているのが、市民団体「海上の森の会」の自然環境調査グループだ。

「カラスワリの実がだいたい色になってる」「センニンソウ(仙人草)のひげが伸びてきた」「オケラの花が咲きました」。

十月中旬、森や川沿いを歩くメンバーたちが道

端の野草や木の移り変わりを次々と見つけ出した。「恒常歩しているからどこに何かあるか、陣に入っている」とグループの山本征弘さん(五十)は定年退職した愛好家たち。曽我部記夫さん(六十)は「季節の変化を見るのが楽しい。花や鳥の名前を覚えていくら、ますます面白くな

った。調べるのは植物、野鳥、昆虫、約五、六の調査区画内で植物は花が咲いた株数を確認し「少ない(一九株)」「普通(二十二株)」「多い(二十二株以上)と分類する。野鳥と昆虫は

生態系モニタリング 環境省が調査本格化



赤トンボの種類を調べる「海上の森の会」のメンバーたち

同様に鳥(四)単位で二段階で記録する。山本さんが朝赤トンボを捕まえた。調査用の資料と厚紙バ、アキアカネと判明、すぐに放した。生き物は保護せず、特定が難しいときは写真

を撮って、後で図鑑などで確認する。野鳥は鳴き声で識別することも多い。「チキッ、チキッ」とやぶの奥から鳴き声が聞こえた。メンバーが「ウグイスですね。繁殖期以外は地味な鳴き声なんです」と解説してくれた。

昨年は植物、野草、昆虫で計八百八十三種を確認。過去百四十四を超えている調査で、多くの野草が、春よりも夏に花を咲かせることが分かった。外来種も増えている。山本さんは「僕から分析できる基礎的なデータが積まないと、五年は必要。わいわい楽しみながら続けたい」と張り切る。

甲山の自然環境を守る

有するところが自然環境の保全につながる。気付きのためにモニタリングが有効と話す。手紙などは、決まったコースを歩き、確認しやすい種類を選んで記録すること。「種類は特化するごめやすい。生き物に詳しい人と一緒に歩くとい

い」 また生物調査のころ、鳥の鳴き、同じ個体を何度も数えないよう注意したい。トンボやチヨウはいったん捕まえて、写真をとり、図鑑で調べる。トンボの写真は胸や腹部の模様を分けるように、チヨウは羽の表と裏を撮るのがポイント。植物は、花や実を付ける種子植物が調べやすいという。

環境省は一九七三年から五年ごと、自然環境の基礎調査を実施。さらに、生態系の長期的なモニタリングを守る「モニタリングサイト1000」を本年度から本格化。森林、草地、湖沼、川、干潟、サンゴ礁など全国約千カ所を調査を進めている。研究者のほか、山本さんのグループなど市民団体やボランティアの協力も得て、五年以上という長い期間の調査を目指している。

調査生物多様性センター生態系監視の久保井豊さんは「サンゴ礁の白化現象のちやんやんミツクな生態系の変化もあるが、しわもわしたのも多く、モニタリングでいち早く検出して保全に生かしたい」と話す。

この季節の見どころをご紹介します

1月、森の落葉樹の葉が落ち枯れたように見えますが良く見ると春に向け葉や花の準備をしています。シデコブシ、サクラバハノキ、ヤシャブシ、ゴンズイなど個性的な冬芽が見られます。野鳥が数多く見エリビタキ、アオジ、ジョウビタキ、カシラダカ、ベニマシコなどが餌を探しています。下旬にはヤマウグイスカグラ、アセビ、マンサクなどが森で、オオイヌノフグリ、タネツケバナなどが野で咲き始めます。

2月、一年中で一番寒い時期でウソ、ツグミ、シロハラ、イカルなどが餌を求めて山から降りてきます。中旬以降暖かい日にはテングチョウ、キタテハ、ルリタテハ、ムラサキシジミなどのチョウ、マメヒ

ラタアブ、オオハナアブなどの昆虫が見られます。下旬にはダンコウバイ、サクラバハノキ等の木の花が、スズカカンアオイ、ショウジョウバカマ、ホトケノザ、ハルリンドウ、ミドリハコベなどの草花が咲き出します。

3月、野鳥は繁殖気が近づきウグイス、シジューカラ、ヤマガラなどがさえずり始め、エナガは巣を作り始めます。クロモジ、ヒサカキ、バッコヤナギ、イヌコリヤナギが咲き、キチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミ、コツバメ、ミヤマセセリ、ピロウドツリアブなどが飛び始め野山が賑やかになって来ます。

シデコブシ、コバノミツバツツジ、オオカメノキが咲き出すと本格的な春到来です、友人、ご家族など連れ立って自然の息吹を感じながら海上の森を楽しみましょう。

(山本征弘)



シデコブシ (花芽)



アセビ



マンサク



テングチョウ



ハルリンドウ



クロモジ

聖地の森 古墳時代

水稻耕作が主な生業となった弥生時代になると、集落の一角に特別な墳墓を築くようになります。それまでの共同墓地ではなく、周囲に溝を巡らせた墳丘です。「^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓」という明らかに呪術的司祭者や支配者のものでした。3世紀末になると、さらに進化した壮大な高塚式墳墓(「古墳」)が登場します。この頃から7世紀前半頃までを古墳時代とよびます。各地に壮大な古墳が築かれ、日本最大の仁徳陵(大山古墳)は墳丘の長径が486mもあります。東海地方最大の断夫山古墳(名古屋市熱田区)の長径は151mです。

瀬戸市内には現在123基の古墳が確認されていますが、その半数が山口川流域に分布しています。中でも山口谷平野の東奥に位置する若宮・屋戸・広久手町一帯には、高塚山古墳群(3基)、塚原古墳群(10基)



図版1 塚原古墳群周辺の古墳分布図

川原山古墳群(3基)、広久手古墳群(3基)、吉田及び吉田奥古墳群(8基)などです。海上の森センター東丘陵には^{らいじょう}来姓古墳群(9基)もあります。

平成18年7月に瀬戸市文化振興財団による塚原1号墳の発掘調査が終了し、現地説明会が行われました。この古墳は聖霊学園の東丘陵上(標高150m)にあり、墳丘は直径19m、高さ2.3mの横穴式円墳で内部の石

室の規模は全長7.3m、最大幅2.3m、高さ1.7mが計測されました。副葬品に須恵質の^{ふたつき}蓋杯・^{へいへい}高杯・平瓶や鉄製刀などが出土しています。^{すえき}須恵器は6世紀後半の



図版2 塚原1号墳出土遺物 (塚原1号墳 現地説明会資料)

ものでした。石材は海上に産する花崗岩が使用されていますが、不思議なことに石室上部を覆っていた巨大な天井石はありませんでした。これらは名古屋城築城の際の石垣使用に供されたものと考えられています。

瀬戸市最大の古墳はもう少し下流にある瀬戸市唯一の前方後円墳である本地大塚古墳(瀬戸市指定文化財、全長33m)です。地元では被葬者は村名の起りとなった^{あがためし}県主・^{ほむじわけのみこと}菅牟治別命といわれています。これは山口谷最大の支配者の墓だったと思われます。しかし、海上の入り口付近に発生した群集墳は、何度も羨道を通して追葬した家族墓の性格だったものと考えられます。

この時代の海上は、聖地の奥に聳えた巨大な森だったのです。

(山川 一年)

グループ報告

里づくりグループ

<本格的なソバ作りに挑戦！>

里づくりグループは一昨年までのソバ作りを一新し、昨年は一から学習しながら栽培に取り組みました。準備段階でソバ専業農家の方から重要なポイントを聞き、会員の方からも貴重なアドバイスを頂き、インターネット上のホームページからも栽培の知識を得ました。それは

ソバは湿気に弱い為海上では畝を高くし、周囲に排水溝を設置する。

土壌は種蒔き前に数回耕起し、土を細かくする。

施肥量は少なめとし、窒素分を控える。

秋ソバの播種時期は収穫から逆算し、8月末とする。

実の色が70～80%黒褐色になった時に収穫する。

等々でした。

収穫量の目標を35kgと計画しましたが、実際は20kg、ソバ粉にすると10kgとなりました。原因はいくつか考えられ、来年に活かしたいと思います。



(藤野昌之)

里のくらしグループ

9月14日 津軽三味線と月見の宴。

素晴らしい十五夜でした。津軽三味線も聞きなれた曲も多数演奏していただき、感激の一夜でした。

今年はソバの収穫に精を出したり、里の教室に多数参加したり、里の皆さんと干し柿づくりをしたり 11月26日サテライトの障子洗い、11月30日と12月4日の二日間障子張りと大変充実した秋でした。

又12月27日年末大掃除と年末行事を行いました。

(出口)

収穫感謝祭がおこなわれました

恒例のあいち海上の森センターとの共催行事「収穫感謝祭」が、今年は11月16日(日)に里山サテライトでおこなわれました。センターの「里の教室」で収穫された餅米、さといも、そば、さつまいもなどを素材とする調理には2日間を要しました。感謝祭の参加総数は207名で、うち国際フォーラムでの参加者が80名でした。用意された餅米は90kgで、搗いた餅は32臼になりました。国際フォーラムで基



餅搗きを楽しむケビン・ショートさん

調報告をされたケビン・ショートさんや名誉センター長のマリ・クリスティーヌさん、前センター長の浦井巧さんも飛び入りで餅搗きに参加され、会場が盛り上がりました。搗いた餅のうち昨年好評でした「みかん餅」を4臼、「むらさきいも餅」を2臼搗きました。さといも、牛肉がメインの芋煮も大量(八



芋煮コーナー

ソリと中鍋各1)に作りましたが、ほとんど参加者のお腹の中に入りました。早くから用意していた海上のタケノコやワラビ、シメジを入れた山菜おこわ

も3セイロ分作りました。これも見事に食べ尽くされました。サテライト東の休耕田では芋焼きもやり



芋焼きの様子

ました。子どもたちが輪になり、用意した50本ほどのさつまいもの最後の1本を焼くまで輪が散りませんでした。大好評のそば打ち教室も、今年は5kgのそばを用意しました。先生、生徒さんが打ったそば



そば打ち教室

の試食会でもマイ・カップ持参の行列が絶えませんでした。当日は曇時々雨という天候で、餅搗きでは急きょ里の教室で使っている収穫用のシートをテント代わりに張りましたが、狭いところでの餅搗きでは、人だかりもできて危険がともないます。来年度はセンターの方で、雨天が予想されるときには大型テントの手配をお願いしたいものです。汗水流して収穫の喜びを味わった里の教室の人も会員も飛び入りで参加された人も、とにかく感謝、感謝の1日でしたが、家に帰って、そっと体重計を隠した人がいたかも。

(伊藤良吉)

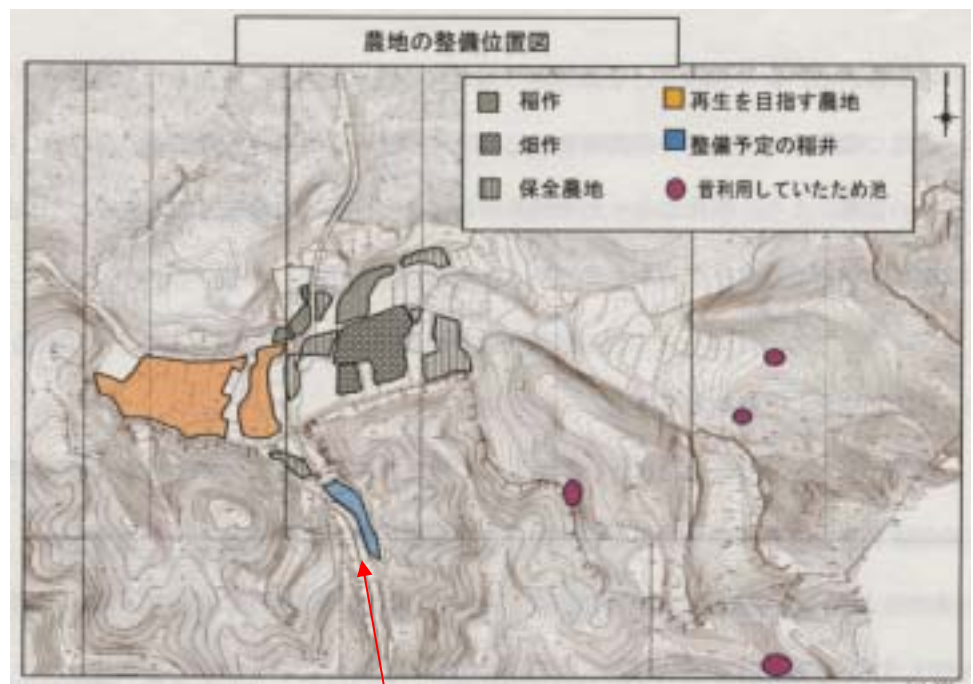
ため池勉強会と 今後の予定

第6回ため池勉強会は10月18日におこなわれました。第5回勉強会で確認された弘法堂南の候補地の旧水田（13枚のうち、下から3枚目。地籍は海上町25番地の内）の現状を調べ、ため池設置による貯水量と可能となる灌漑水田面積、今後の課題などについて検討しました。

現状調査では、候補地の集水域には管理が不十分な植林地があり、ため池を造成するとなると、雨水の有効利用のためにも早めに間伐・枝払いなどの整備が必要と思われました。また、候補地の谷の両側には水路があり、ため池への集水路、ため池からの用水路として活用するためにも、これらの水路の整備も必要になります。

今回は、海上の森センターから候補地ため池の集水量と灌漑できる水田面積についての試算、対象地の生物環境の調査報告についての提案と報告がありました。細かい計算式は省略しますが、候補地の集水域で利用できる流出水量はおよそ10,000 m³となります。年間貯水量がすべて利用できたとして、灌漑可能な水田面積は最大限で4,000 m²（およそ4反歩）となります。これはあくまで計算上の数字で、温暖化の進んでいる現在、降水量は不確実なものとなることも予想されます。計画地（25番地の内）の面積は504 m²（およそ5畝3坪）です。最大水深を1メートルとすると、利用できる流出水量は504 m³となります。集水域の最大流出量のおよそ20分の1です。

対象地の生物環境の調査（『愛・地球博 環境アセスメントの歩みと成果』平成18年11月、財団法人2005年日本博覧会協会）によると、愛知県の絶滅危惧2類（環境省では絶滅危惧1B類）に指定されている水草のトリゲモ類が海上の里に見られ、一時



今回整備を進めるため池候補地 海上の森農地整備（素案）より抜粋

的ながら耕作による人為的な管理によって分布域が拡大されたとあります。今回の候補地からは報告されていませんが、恒常的な貯水施設（ため池）の整備、耕作の再開と管理などによって、候補地周辺も将来的にはトリゲモ類などの分布域になることが期待できます。

センターの提案と報告をふまえた検討では、候補地は上流部の集水域整備などによって貯水は十分可能であると判断されました。ただ、年によって降水量にバラツキがあることを考慮すれば、今回の候補地よりさらに上流部に逐次1、2の貯水施設を造成することが望まれ、また複数の谷に分散して造成することも重要であるとの認識をもちました。

ため池整備にさきだって、放棄された耕地にどのような環境変化が起きていたかということを確認しておく必要があります。さしあたっては「うるめき」のような広域に拡大するのではなく、今回の候補地（25番地の内）に絞って主として植生調査をする予定です。

次回以降の勉強会では、ため池候補地周辺の整備計画、ため池の維持管理の体制、旧水田の活用、ため池造成後の水辺環境変化の調査などを検討することになります。

（伊藤良吉）

海上の森幼児森林体験推進会議について

あいち海上の森センターではかねてから多くの人にまず身近な自然や森林にふれて、感じて、そして考えてもらうために多様な体験学習プログラムの実施に取り組んでいますが、その一環として幼児にも参加できるプログラムを開発すると共に、実施にむけてフィールドを整備し、保育活動の場としての森林の新たな活用方法を発信したいとの趣旨で、「海上の森幼児森林体験推進会議」を立ち上げ、委員として海上の森の会も参加しています。

委員は学識経験者、保育関係者、愛知県教育委員会などで構成されており、平成20年7月から2回開催されました。

推進会議が目指している目標と2回の会議の内容は次の通りです。

未就学児を対象とした森林体感プログラムの開発とその実施マニュアルの作成
見開き2ページでプログラムを説明し、全部で60ページ程度にまとめる
という概略は決まりましたが、具体的内容についてはまだ議論されていません。

幼児森林体験フィールドの整備方法策定と実施

海上の森センターから吉田川をはさんで向かい側、県所有の駐車場東側区域を候補地としました。整備方法については委員で2回にわたって実地調査し、ゾーニング案など意見が出ましたがまだ決まっていません。整備実施手段については海上の森の会への期待もチラホラ出ましたが未定となっています。

「海上の森」での幼児森林体験をモデルとした県内への取り組みの普及。
議論に至っていません。

予定ではあと2回の
推進会議で決着予定で
すが、幼児森林体験フ
ィールドの策定や日常
的な運用が、海上の森
にとってどうか、海上
の森の会員にとってど
うか、そして一般市民
にとってどうか、よく
考えていく必要がある
と思います。

平成20年12月4日
(冬木)

事務局より

「海上の森の会」NPO法人化をめざして

昨年11月の運営会議で「NPO法人化を目指した活動内容にしていきましょう」と会議メンバーの一致で確認されました。今年早々には常勤体制の確立や、それに伴う事務用品の購入など具体的に進めていく必要があります。4月の新年度から、これまで海上の森センターで企画されていた「里の教室」、「調査学習会」や「ものづくり教室」などが新たに「海上の森の会」に委託される予定です。

まさに「行政と県民・市民団体との協働」が現実のものとなろうとしています。これらは決して運営会議メンバーだけでできるものではありません。会員皆様の一人一人が積極的に参加してこそ初めて成り立つものと考えております。今後ともご協力をよろしくお願
いいたします。

(福田)

	海上の森の会・事務局の対外活動	(10月以降分)
10/11	瀬戸市「市民活動交流フェスタ」で活動紹介のパネルを展示	
10/15・16	「人と自然の共生フォーラム」で主催者としてパネルで活動紹介と海上案内	
11/27	豊田市前林地区交流館の方々(36名)を散策案内	
11/29	(株)INAXさん「森でeこと」への技術協力	
12/15	NPOについての勉強会	
12/21	リサイクル運動市民の会さんへの技術協力	

第51回～第53回運営会議で話し合われた主なこと

運営会議は傍聴できます。ご希望の方は事前に事務局までご連絡をお願いします。

第51回運営会議 2008.10.18

「海上の森だより」第13号への会費未納者宛振込用紙の同封発送を了承 / 豊田市前林地区コミュニティ会議の11/27海上の森案内依頼の報告 / 中部リサイクル運動市民の会による森の手入れ技術指導依頼について森づくりグループで対応 / 東邦ガス(株)環境部から賛助団体加入の申し入れ(次回検討) / 各グループ報告 10/12 稲刈り終了・10/19 ソバ刈り 11/8 ツアー案内者を募集 9/14 津軽三味線鑑賞会・月見に30名参加、9/21 海上の森の食材を使った料理教室を開催 9/27 野遊びグループ「どんぐりの背くらべ」イベント開催 生活史調査グループ「動植物・鉱物方言調査カード書式」を検討 / 第6回ため池勉強会の報告 / 9/20 開催のNPO法人勉強会に基づくNPO法人化について審議 / あいち海上の森センターの21年度委託予定事業・専従事務員について審議 / 委託事業に係わる報酬基準について審議 / 海上の森センターより「人と自然の共生国際フォーラム」への協力要請 / ポスターセッション出展のポスター更新について検討 / 海上の森センターからサテライトへの自販機設置の適否について相談があり、検討の結果設置しないことに決定

第52回運営会議 2008.11.8

愛知県自然環境課から「あいち自然環境保全戦略(仮称)」について説明 / 第6回ため池勉強会の概要について説明 / 「人と自然の共生国際フォーラム」スケジュールと役割分担の確認 / 各グループ報告 森づくりグループ尾根と谷筋の森づくり保全整備を検討 野遊びグループ 11/1 落ち葉遊びと万華鏡づくりを開催 動植物・鉱物方言と海上での利用方法・データベース化を検討 11/8 秋のツアー開催参加者16名 里づくりグループ収穫感謝祭の準備 / 委託報酬基準案について審議 / あいち海上の森セン

ター21年度委託予定事業について継続審議 / 頻発する盗掘・採取に対する警告看板設置について海上の森センターに要請

第53回運営会議 2008.12.6

「人と自然の共生国際フォーラム」11/15 フォーラムは500名参加・11/16 フィールドワークは170名参加(海上の森コース80名参加)・後日報告書作成 / 収穫感謝祭の報告 / 「海上の森だより」第14号原稿締切の確認・編集委員辞退の申し出があり事務局で対応検討 /

各グループ報告 森づくりグループ 12/6・12/16 森の手入れ・作業路の整備実施 野遊びグループ 12/21 竹細工ものづくりを実施予定 3/14 ツアー実施予定 古民家の障子張替えを2日間実施・サテライト展示施設設置の具体化を検討 / 備品倉庫として現在製材機格納の仮小屋活用の方向で検討 / 20年度海上の森の会定期総会の3/22開催及びNPO法人化の提案説明を承認 / 陶器焼成窯の無償譲渡の申し出について説明 / 豊田市前林交流館案内実施の報告 / INAX社員50数名による森の手入れの技術指導依頼について森づくりグループで対応 / 21年度委託事業に伴う事務局員募集・採用に係わる事務局案について審議。

(似内)



1月～3月の行事予定

一部前号既報も含んでいます

1月	11(日) 正月行事とドンド焼 「二日のトロロ」「七草粥」 10:00～15:00 子供さんの書初めなどあれば持参下さい	集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器・箸 参加(食材)費:会員は300円/人、500円/家族、非会員は500円/人	【里のくらしグループ】 対象:会員、家族会員、非会員
	7(土) 第7回ため池勉強会 10:00～12:00 ため池設置の工程表とそのための体制作り、灌漑用水の活用について検討します。	持物:筆記具	【会行事】 対象:会員
2月	7(土) 資料の管理と調査 13:30～15:00 調査カードの項目・レイアウト確定と動植物方言調査を行います	集合:里山サテライト 持物:筆記具	【生活史調査グループ】 対象:会員
	7(土) ぼくらはちびっこきこり隊 9:30～14:30(午前のみ参加可) 集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、弁当 なんで木を切っちゃうのに「森づくり」なのかな?見学させてもらおう。道具を持ってきたら手伝えるかも?		【野あそびグループ】 対象:会員、家族会員
3月	22(日) 海上の森の会定期総会 10:00～11:30 参加者には海上の森を歩きたくなるあの限定品を進呈します	集合:パーティ瀬戸4階会議室 持物:新年度会費	【会行事】 対象:会員、家族会員
	29(日) 雛節供とオコシモン作り 9:00～ 雛節供行事の再現	集合:里山サテライト 持物:軽食、飲料水、食器、箸 参加(食材)費:会員は300円/人、500円/家族、非会員は500円/人	【里のくらしグループ】 対象:会員、家族会員、その他
5月 予告	5(祝) 多度神社祭礼幟立てと五月節供菓子作り 9:00～ 柏餅、オカズ作り、祭礼参列など	集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器、箸 参加(食材)費:会員は300円/人、500円/家族、非会員は500円/人	【里のくらしグループ】 対象:会員、家族会員、非会員

定期開催している活動

生物季節調査(花・虫・鳥)	動植物の四季の変化を継続調査しています	【自然環境調査グループ】
毎週木曜 9:30～	集合:海上入口駐車場 持物:昼食、飲料水	対象:会員
森の間伐	1月 17日(土)・20日(火) 2月 14日(土)・17日(火)・21日(土) 3月 7日(土)・14日(土)・17日(火)	【森づくりグループ】
毎回9:00～15:00	集合:現地(弘法堂横) 持物:昼食、飲料水、手袋、他	対象:会員

あいち海上の森センター募集行事の受託事業

スタッフ協力募集中!

【海上の森ツアー】 3/14(土) 海上入口駐車場集合 9:00～13:30 予定

【里山のものづくり】 1/24(土)・25(日) 9:30～15:30 予定

一般参加申込みは海上の森センター(0561-86-0606)まで



問い合わせ先一覧

グループ名・行事名	担当者	電話&FAX
【生活史調査グループ】	伊藤	0561-84-7044
【野あそびグループ】	早川	0561-21-9863
【里のくらしグループ】	出口	0561-83-3470
【森づくりグループ】	平野	0568-54-9118
【自然環境調査グループ】 【ツアーグループ】	山本	0561-54-9067
【海上の森ツアー】 【里山のものづくり】	あいち 海上の森 センター	0561-86-0606 0561-85-1841

編集後記

通信7号から14号までを編集してきたチームを解散することになった。一番労を伴ったレイアウト作業とPDF化を担当したHYさんには、森の精から功労賞を。楽しい手書きの一番人気ページを担当したHMさんには、特別賞を。編集長の夢であった「未来予想図」は、後を引き継ぐ人が出てくるまで眠りにつく。読んでくださった方々、ありがとうございました。(曾我部)

随時入会受付中!

年会費(4月～翌年3月) 1口1,000円 1口以上
同居2名以上で家族会員 1口2,000円 1口以上
賛助会員(個人・団体)大歓迎!

口座記号番号 00820-6-185628
加入者名 「海上の森の会」

ご意見ご感想お待ちしております!

森の会への連絡はメール FAX 郵便でどしどしお送り下さい

kaisho_satoyama@yahoo.co.jp 0561-21-9298